



アバン仙台 Jr. Youth News 2018年 11月号

第49回

クラブユース新人大会 開幕 ～来年度 MJ1部 昇格 クラブユース予選 への道～



●**県リーグ1部昇格**
●**東北ナンバー1に向けて**
新人チーム始動！！

●10月20日(土) vs FC エナブル アバン 5 : 0 エナブル

●10月21日(日) vs 東六クラブ アバン 3 : 1 東六

新人大会の予選2試合を勝利し、予選1試合を残してクラブ初の上位トーナメント進出を決めることが出来ました。

嬉しいことですが、内容は課題が大いに残るものでした。

選手たちのサッカーノートには、

『内容でチームとしても個人としても、とても悪く終わってしまった試合であった。自分たちがやるべきことを何もできていなかった。』『パスも攻めるためのパス回しではなくなっていた。』『相手のラインが引いているのに前に行ってスペースがなくなっていた。それを全員に伝えることができなかった。』

など、自分たちのプレーを振り返り、反省し、足りない部分を観ることができていました。

『百聞は一見に如かず』という言葉は一度は聞いたことがあるかもしれませんが、これには続きがあり、その一つがこれです。

『百考は一行に如かず』

いくら考えても、考えたことを実行に移さないと意味がない。まさに試合の中で、気づいたこと、感じたことをこれからどう行動に移していくのか。がすごく重要になっていきます。

考えるだけでは、成長しないのです。

やるかどうかは、自分たち次第。

強い意志をもって取り組んでいきましょう！

Where there is a will, there is a way.
(意志あるところに道は開ける。)

11月の試合日程

日時：11月17日(土) 13時30分～

会場：多賀城緑地公園 相手：AOBA FC

MJ3部リーグが、11月10日、25日に予定しています。
なお MJ3部リーグは、11月25日が最終節の試合予定です。

ある選手の成長



相澤 奏太
(あいざわ そうた) < くん

今回、紹介するのは、1年生の相澤君です。

彼はアバンツァーレのジュニアSCからジュニアユースにあがった選手です。

彼のお兄さんもジュニアユースの選手で南仙台から長町フットメッセまで走ることを週3回ほどの頻度で取り組んでいた努力家で頑張り屋で、誰よりもよく走り、戦う姿勢をみせる選手でした。

そのため、後輩からの人望も集めていました。現在も某高校の中心選手として活躍しています。それでも謙虚に『僕はまだまだです』とつい先日話した時もそう言い、本当に感心したところです。

そういった姿を間近で小学生のスクール生の時から観ているからでしょうか。

相澤君もサッカーの練習は大好きです。でも、選手として順風に活動できていたわけではなく、どちらかと言えば苦勞してきた選手です。でも諦めずに地道に練習していきました。

そういった姿勢もお兄さんと少し似ていると思います。

最近見た練習や試合の中でもだいたい自分のプレーが出せるようになってきています。丁寧に練習してきたドリブルやパスをもらう動きなど、積み重ねてきたものが実を結び始めています。

これからも地道に誠実にサッカーに向き合い、誰よりも成長してくれることを期待せずにはいられません。

きっと彼が中学3年生になる頃、そして卒業する時には大きな実が花開き、自信と誇りを胸に、堂々と次のステップへとチャレンジしていく選手になるでしょう。

これからも相澤君の努力とその雄姿を見守ってください。

この選手に注目



山崎 怜士
(やまざき れいし) < くん

今回、紹介するのは1年生の怜士くんです。彼は小学生の頃にもテクニカルスクールで一時期活動したことがあるアバンを知る選手の一人です。

現在、サイドバックとしてチームを後ろから盛り上げてくれています。

怜士くんの魅力はまずそのキャラクターです。最近の練習や移動バス車内でもその人柄がチームメイトに好かれているのがよくわかります。

また、キャラクターだけでなく、選手としても高い能力を持っています。怜士くんも自分の特徴にもあげていることですが、相手のパスを奪う「インターセプト」のレベルが高く、チームに大きな勢いをくれます。ディフェンスがボールを奪う確率が高ければ、攻撃の選手は勇気を持って攻撃的にプレーできます。

ただ、怜士くんはその攻撃的な守備だけでなく、自分も攻撃参加できる選手ということです。その点で言うと、彼は切り替えのタイミングの予測・判断、行動までの時間がチームの中でも早い。これはサイドバックという運動量の多いポジションにおいて、優位性があります。

この能力によって攻撃参加し、そしてFWの選手にクロスボールあげるだけでなく、観察力も使い強引なことを回避し、パスによる組み立てにも切り替えられ攻撃面でも貢献しています。今後のチームの成長にこの怜士くんも大きな力となっていくことでしょう。今後の成長が楽しみです。

向上心が尽きることはない

アバンツァーレの選手は「ねばり強い」「行動力がある」という印象をよくお話をいただきます。これには一つ、ある姿勢が関係していると思います。それは選手自身に「意思」と「向上心」があるという部分です。

これは、やりたいことを成す上でごく当たり前のようですが大事なことです。上手くなりたいたいという気持ちは大事です。でもただサッカーが上手い選手ではなく、思いやりがある、または鼓舞し合い刺激し合える関係も大事です。そういった関係の中での「心の成長」は大きいと考えています。

例えば、練習や公式戦、たとえ練習試合でも、そしてどんな相手にも「最後までやりきる」「諦めない」「根気強さ」「やる気」「本気」「誠実さと素直さ」「強気」「前向きさ」が大事です。

このような心の成長も「自ら向上心を育む」中で外せないところですし、選手である前に人として成長していくこと、そして中学生以降の活動の場でもそういった向上心を持ってほしいと願うばかりです。

アバンツァーレの意味はイタリア語で「前進」を意味します。成長したい、強くなりたいたい、または上手くなりたいたいという意思を持った選手が集まりただ勝利するのではなく、思春期の真っ只中で仲間を尊重し、人の言葉に素直に謙虚に、でも時には自分の意思を伝えられる。そしてチームの中で人としての成長と、自分の向上心のもと技術的にも成長してほしいと願っております。

さて、これまで3年生と共にU15リーグ戦を戦ってきた2年生。来年度のリーグ戦には2年生のこれまでの経験も必要です。

これからチームの軸となっていく2年生の荒井くんが1年生から現在までに経験から話してくれたことを紹介したいと思います。

今までアバンで活動してきて、コーチに求められた時もあったし、逆にコーチから言われた言葉で元気づけられた時もありました。その時その時で自分の感情が優先になってしまったり冷静になれなかった時もあったけれど、後々考えて自分に何が足りなかったのかもわかりました。

そんなアバンでやってきて、たくさん経験できましたし、たくさん成長できました。親やコーチのおかげで今もサッカーを続けられています。とても感謝しています。これからは自分達2年生が中心となります。今も新人戦と一緒に戦っている将来有望な1年生と一緒にこれからの一年間がんばっていきたいです。

紹介した荒井くんは、とても苦労しながら、そしてコーチともよく話してきた選手です。現在の彼はこれまでのことをしっかり考え、自覚も新たに1年生と強いチームをつくるために頑張りたいと考えているそうです。

『あるアスリートの向上するための毎日』



張本 智和
選手

張本智和(はりもと ともかず)選手(15歳)。この仙台の同年代選手の毎日について紹介します。

張本選手のトッププロとして活動していくための心得として、元プロだったお母様の教えがあります。

それは... 『結果よりも過程』

これなんだと。そう言われてきたそうです。その言葉を誰よりも理解するのは大変だったと思います。

小学生であれば純粋に勝つことを楽しみたいでしょう。そして上手くなればコーチが同じ立場だったとしたら勝つことを少しは友達に自慢したくなると思います。でも、苦しいときにこそ、それまでの過程が生きてくるということです。

具体的には、幼い頃から結果以上に日々の鍛錬を大事にしています。そこに誰よりも取り組んできた張本選手が日々の習慣にしているのは、誰よりも早く朝練のために練習場に入り、そして練習場フロアと卓球台の掃除をして一人で黙々と練習するのを欠かさないそうです。環境整備も大事にしているのですね。

そして、日本を代表するトッププロと言ってもまだ中学生です。勉強も疎かにしているわけではありません。勉強もまた成長するための過程です。指導者が身近な人で環境にも恵まれている、でも甘えない。あくまでストイックに、でも当たり前のように朝練を続けているわけです。

コーチも自主練は自分が成長するための味方でした。練習が大好きでした。試合はもちろん気持ちがさらに高揚して楽しいものです。でも、その時間、1プレーを楽しむのであれば練習は欠かせません。月1回の試合でも練習でも自分がサッカーというスポーツを中学生の時に始めようと決めた気持ちに背く取り組みはしません。自分の好きなことだからこそ、誰よりも最高の準備をして試合にぶつけ、そこからまた成長していける。強者も弱者もありません。上手い下手も関係ありません。明日、あるいはその次の対戦で成果が出たり、結果が変わることがあります。

だから、ただ真っ直ぐに自分とそしてチームで目指す結果のためにまずは日々の練習をしっかりと続けていきましょう。

テクニカルレポート

今回は、最近日本の選手たちも活躍している卓球からとてもよい姿勢だなと感じたスタイルからお話したいと思います。まず、そのスタイルとは何なのか...

それは... 『前陣速攻』という攻撃型のスタイルです。

これは卓球という競技においては、多くの選手が卓球台から少し離れた位置でボールを待ち構えます。でも、この前陣速攻は卓球台の縁とほぼ間隔のないところにあえて立ち、打ち返されたボールがバウンドした瞬間に打ち返すという相手の反応しにくいタイミングと打球で攻撃するスタイルです。

このスタイルをやるのにももちろんリスクは伴います。自分もまたいち早くポジショニングをとりながら打ち返さなければいけない。

そんな攻撃的なスタイルを見せているのが伊藤美誠(みま)選手です。伊藤選手の驚異的な能力は、「眼」にあります。伊藤選手が言うには、前陣速攻しつつ相手が打ち返した後のボールの行方はほぼ観ていない。感覚だそうです。どこを観ているのかというと、

それは... 『点でなく位置取り』

驚くことにほぼボールは観ずに『相手の位置取り』を観るのだそうです。あの打ち合いの中では驚異的だと思います。

でも、これを聞いた瞬間、サッカーをしている自分でもそうしていること共感であり、皆さんにも伝えていることだと感じました。

「止める蹴る」の練習の際に、自分の足にボールが届くまでの間やそれ以前から、目の前の相手だけでなくその奥まで観よう。という声かけをします。

サッカーではプレー中も状況は変化しています。蹴る瞬間まで状況変化への準備をする。相手の位置取りを観る。

もちろん、それをやる上ではパスの精度や自らのコントロール技術、ポジショニングやタイミングも大事です。そういった細やかな「準備」と「技術の質」を高めることで、ストレスなく、目線の前に向けてプレーできたらサッカープレイヤーとして「判断力」や「創造性」を磨くことができると思うので、ぜひ皆さんも意識して挑戦してみてください。

ある日の出来事

選手みなさん、そして保護者のみなさん。いつも活動、そして選手へのサポートをありがとうございます。

クラブでは選手たちと能力を高めていくために運動前後の体操、体幹トレーニング、走力トレーニングなど取り組んでいます。それらの身体活動と運動強度に対する食事の量や摂り方についても気にかけているところです。

さて、皆さんの食事はどうですか？食事は増えていますか？先日、その『食事と量』について驚いた出来事があったので紹介します。

新人戦会場である中学生野球チームの昼食に驚きました。ご飯用のタッパーの大きさが明らかに大きいことに気づき、声をかけ聞いてみるとチーム一人ひとりが3合食べています。身体を大きくし、強い打球を打つ、いいプレーをするためだそうです。



サッカーしているみんなも同じように身体の成長と運動量の増加と共に食事は欠かせません。みんなと同じ中学生。みんなも食事面、取り組んでいきましょう。

※ Facebook でもチームの活動について紹介していきますので、ぜひジュニアユースの情報を見てみてください。